

- 島国日本の物流を支える内航海運の持続的な発展のため、海運のDXを促進し、船陸間で運航データ、貨物情報等を一元的にリアルタイムで把握、情報共有できるデータ連携の仕組みが必要。
- 最近では、次世代衛星通信が実装され始め、洋上での通信容量・速度が増大していくことから、これまで分野毎に独立・分散していた様々なデータを集約した海運関係データ連携基盤を構築し、新たなサービスや付加価値を創出することが期待。
- また、データ連携基盤を活用して海運のDXを促進することで、省エネ運航、安全性向上、労働環境改善、生産性向上などのイノベーションが期待。
- このため、海運DX促進に向けた海運関係データ基盤の開発実証を通じてスタートアップに取り組む中小企業等を支援する。

【開発内容の例・イメージ】

